

令和 4 年度 園評価書

園番号 11 園名 中薬科こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A : よくできている B : 概ねできている、C : あまりできていない、D : できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
自分が好き！ 友だちが好き！ 中薬科が好き！	とことん 遊ぶ！！	じっくり遊びこむ為の時間や場所を確保する	登園してからすぐに遊び始めるられることや子どもの様子を観て入室の時間を調整するなど遊びの展開ができることを見込んだ時間を確保するよう配慮や工夫をした。他の学年の職員と声を掛け合い見合う体制をしてきたことで子どもが自分で納得いくまで遊んでいると感じる。(各自で納得して入室している)	A	A	・担任の枠を越えていろいろな先生が関わっている態勢が良い ・春の頃より園庭の環境が変わり子ども達も楽しそうに遊んでいる。子ども達の発達や興味に合わせて環境構成を考えたり工夫している職員の努力が伺える	・職員みんなで見合う体制を継続しつつ、個々の思いを大切にしたい保育や環境構成を考えていく。またやりたいことが安心してできるスペース作りをさらに工夫していく ・学年の発達や興味を視野に入れた室内の環境も並行して検討していく ・子ども力や信じ、子ども同士でやり取りして乗り越えていく姿を見守りながら、必要に応じて、手や知恵を添えていけるようクラスの取り組み状況を伝え合う振り返りやエピソード研修など園内研修で共有の強化をしていく
		好きな物を自由に出し入れできる配置と、自分で工夫して遊べるような道具や教材を用意する	手の届く見やすい高さへの配慮や中が見えるウォールポケットにしたりの工夫、倉庫や砂場の遊具の置き方、アイデアパレット、丸太などの可動遊具等の導入により子ども達が自由に取り出しやすくなってきたことで、イメージを共有しながらいろいろ組み合わせ一緒に遊ぶ姿も見られてきている。製作なども戸外でできるように考えてきたが、年齢により子ども達だけに任せられない道具をいかに提供していくかまだ検討中。廃材の利用も視野に入れて考慮している。	B	A	・園庭に可動遊具がいっぱいあるのがいい！ ・自分たちで考えて好きにやれる。また園庭に設置した作ったものを取り置きしておくのも遊びが続いていきやすくなっている ・時間で区切った活動でないことで、やりたいことがやり遂げられることに繋がっていると思う	
		思ったことや感じたことを伝え、自分で考え決めていけるように一緒に考えた、相談できる雰囲気や環境を作る	「〇〇したい？」という言葉が減ってきた。困った時にすぐに手を貸すのではなく、どこが困っているのか？ どうしたいのか？ それにはどうしているのか？ 思いの実現に向けて、子ども達にも考えたり整理していく機会を与える関わりを意識してきたことで、先ずはやってみよう！ とすることが多くなった。運動会や発表会など自分たちがやりたいことを考えて決めていけることを一人一人が楽しんでた姿が垣間見られた。「見せたい」「やってみたい」「もっとこうしたい」の思いが出てきている。	A	A		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1) 0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	0歳から5歳まで異年齢で遊ぶ場を保障し、日々の保育を振り返り語り合う	園庭では全体で見合う体制がとれているので、職員もほかのクラスのこと関わることも多く子ども達も自然と関わり合う姿が生まれている。毎日の振り返りの中で、担任が気づかなかった姿を他の担任から知らせてもらった、みんなで子どもの姿や思いを考えたり、悩みを助言し合ったりして共有も図れている。	A	A	・保護者との連携は言葉でいうより難しい。アンケート等で意見がないのは良いことと捉えてよい。不満があれば、黙っていられず何かしらのアクションがあるはず。 ・避難訓練は担任がいらない時に誰がやるのかを決めてその人もいない時があるから、 「何をやるのか」を徹底して周知しておく方がいい。どんな状況であってもその時にそこにいる人だけで対応しなくてはならないから、やるべきことを協力してやる態勢を作っておくこと良い。 「誰がやるかでない！何をやるか」共通理解しておく方が現実的と考える ・地域防災に小学校や中学校も巻き込んで欲しい ・小学校も自分で考えて決めていけるように授業の環境を試行錯誤している。こども園の頃からこうした環境にあることで、小学校に行っても気持ちよくスタートがきれていくと思う ・保育も教育も判断力とセンスが求められていると感じる。	みんなで見合える体制は今後も継続していく。「語り合い」は構えず、「〇〇ちゃんこんな表情をしてかわいかった。××だと感じたのかなー」等気づいた時に、伝え合える、一緒に笑い合える、喜び合える一コマでもいいと思う。子ども思いや心の内面に寄り添って行きたい
		(2) 一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	朝の受け入れの時に視診と保護者から聞き取った情報を基に体調などに配慮した保育計画を調整していった。乳児は連絡帳で、保護者と確認や情報交換もできた。担任だけでは対応できないところは声を掛けて他のクラス担任に協力を求めた。個々に応じた生活リズムというより個々の家庭の事情に応じての対応となり、体調だけでなく甘えや機嫌への対応も多かった	A	A		体調にも機嫌にも子ども達の状況に応じて思いに寄り添っていく。少しずつ気持ちのほぐれを支えながらその気になったり無理なく安心して過ごせるにはどうしたらいいのかケースバイケースで考えていく。保護者にもその旨を伝え連携し合えるものは一緒に対応していけるよう働きかける
		(3) 環境を通して行う教育及び保育	やってみようが経験できるような発達や興味に合わせて教材や素材を提供していく	それぞれの年齢や発達に合わせた素材や教材、道具など提供するだけでなく、どうだったのか？環境の再構成も意識して職員間で確認、検討し合って対応してきた。例えば雲梯にロープを張ったことで、あまり触れなかった子や「出来ない」と自信がなくなった子がチャレンジしてみたり、少しでも出来た気がなれたことが嬉しかった「またやってみよう」と前向きになっている姿がある	A	A	
2 安全管理・指導	(1) 事故防止・防災	毎月の避難訓練や交通安全指導を通して命の大切さや命を守ることを伝えていく	避難訓練を通してや日々の生活の中で、子ども達には「自分の身で守ろう」ということを伝えてきた。「命の大切さ」「なぜ避難訓練をするのか」を知らせていたり、いざという時に保育教諭がどうすればいいかの訓練の為、日程を知らせず突発にやることを試みたことで年間の予定通りに実施できなかった。避難訓練後に反省をするもの、次回にどう生かされることがまだ難しいのかなどの検証が十分でなかった。	B	B		取組は良かったが実行に関しては課題がある。またクラス担任が休んだ時にまごつかない為にも、今年度振り返り、役割分担をきちんと決め直し把握に努める。それも踏まえて訓練後に反省と確認をし、職員が連携して安全に避難できる訓練を確実に積み上げていく
		(1) 健康教育の充実	うがい・手洗いの仕方が身につくよう年齢や発達に応じて援助していく	小さい子は保育教諭が手を添えたり声掛けをしながら自分でやっているように援助している。少しずつ自分で出来るようになること、自分からやろうとしたり、友達にもやるよう声を掛け見られたりした姿が半面、するまでも出てきて、わかっているのに言われないとやらなかったり姿もある。やり方がわからない、手順が適切でないことがないよう、また手洗い後の始末なども見届け、声掛け等必要に応じた個々の対応をしている	A	A	
4 特別支援教育・保育	(1) 支援体制づくりの推進	発達に合った支援方法を共有し、心配な行動が見られた時、今後の対応も再検討する	特別な支援を必要としている子の行動や発達段階等は振り返りの時に話題に出たりして、関わり方は報告されているが、具体的な支援方法は職員全員に周知されていないこともあった。担任は会議や振り返りの時にアドバイスをもらい対応を検討しながら関わっているが、担任が支援者も兼任しているのが難しいこともある。	C	B		支援が必要と思われる子の保護者に理解を得られて、支援者がつけられるようになったので、サポート計画などの作成や支援方法の検討、周知、取組等手厚い対応が出来そうである。そうはいつでも支援者任せにせず、みんなで考えていく、みんなで見合う体制は強化していく
		(1) 組織体制の充実	自分の役割を理解し、責任をもって遂行する中で職員同士が声をかけ合い協力し合っていく	分掌や行事があるたびにかわらず、「困っていることない？」「今どのくらいできて？」と声を掛け合ったり、「これはこうしているか」と相談したりしてなど、互いに気にかけてながら連携して進められている。担当係だけでは期日までに難しくなった時も可能な範囲で協力し合い乗り越えてきた。	A	A	
6 研 修	(1) 研修体制の充実	「考える力を育むための保育者の援助」について自分の考えや意見をもって意見交換をする。	年間を通して公開保育を行い事前研修や事後研修で関わり方など検討したり意見交換をしている。自分の考えや意見を持っては来ていると思うが、意見を求められないと発言しない人もいる。グループ議論したり、討議内容を具体的にわかりやすくしたりして意見を発信しやすい雰囲気や努めたが、積極的に発言する人の偏りがある。「考える力」とはどういうことか等十分に理解できていたか検証も必要だったかもしれない	B	B		事例を挙げるなど、イメージしやすい状況で話し合う。少数のグループで、考えや意見などを伝え合う。付箋に書いて、内容に沿って一緒に考えなどを言いながら整理していく等話し合いの仕方を工夫する
		(1) 教育・保育環境の充実	子どもたちがじっくり遊べるための時間や場所、空間を準備していく	可動できるものを増やしたことで、子ども達がやりたいことを考えて、自分たちで思うように動かしたりして遊ぶ姿が増えた。揃った活動から個に合わせたペースでの活動や移動に変えていくことで、朝からの自由に遊ぶ時間が確保され、満足いくまで遊べたり、自身が納得して切り替えていたりして、遊びを展開していく姿も見られている。職員で何度も検討し合うことで環境を作ってきた	A	A	
8 家庭との連携・協力	(1) 家庭教育への支援機能の充実	発信した物を見てもらえる工夫(配置・文字量・写真使用等)をしていく。情報として伝えるだけでなく、家庭から思いを伝えてもらえるよう投げかけて待つ、選択肢を設ける等一緒に考えて進められるようにする	写真を貼る、コメントを入れる、イラストでイメージしやすくする、保育者のかかわりや子ども達の葛藤などを入れたり、行事や活動に合わせておたよりやボードでリアルタイムに伝えるなどの見てももらえる工夫はできたが、保護者から思いを伝えてもらうことはあまりなかった。ボードを見た日は、子どもとの話題になったり帰りが保護者とそのことで話をするきっかけになり喜びや成長を共有する機会にはなったが、話をする人も偏りがあるので、行事や活動後にアンケートなどで意見を募った。満足している評価も多かった。保護者アンケートもコロナ禍での行事の挙行に感謝していることだけで、特にコメントはなかった。保護者の意見が募れたい繁栄された感じはなかった	C	B		見てももらえるための工夫は、量的やだしタイミングも含めてできることはやってきたが、保護者からの意見や思い、感じていることを発信できる雰囲気や機会を作っていく工夫やアイデアが必要だと思う。それを考えていきたい
		(1) 近隣の園との連携の推進	小学校のスタートカリキュラムへの参加及び、近隣園との公開保育や活動を通して情報交換や交流をする	近隣の中薬科小学校や清沢こども園とは何度か訪問したり、小学生や園児が来園して一緒に活動するなど交流してきた。近隣のこども園の公開保育に正規職員は全員交代で参加し情報交換が出来た。	A	A	
10 地域との連携	(1) 信頼される園づくりの推進	わらびこでの栽培指導、地域の行事への参加(お田植祭等)など地域との交流を図りながら様々な人と触れ合う機会をつくる	わらびこでの収穫体験や板づくりの参加、保護者や農家の方とお茶摘み体験やトマト栽培の指導、JAと護国神社主催のお田植祭や菰刈り感謝の慰問などたくさんの人に触れ合い色々なことを見たり聞いたりやってみたり子ども達にとっては貴重な体験ができた。地域の人には子ども達の様子や姿を見てもらったかかわりを持つことで、こども園の生活も知ってもらえた。職員も地域と連携している現状を喜べた。社会福祉施設の防災訓練と一緒にスモークハウスを体験したことも地域の方に喜ばれた	A	A		来年度も自園からお誘いをしてしり地域の行事や催しなど子ども達も参加するだけでなく、休日が多いが無理のない範囲で、参加をして地域の方と良い関係を続けていきたい。